

仲町小 学校だより

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 8-18-4 Tel048-831-4781 Fax048-835-1355



メールアドレス e-mail : nakacho-e@saitama-city.ed.jp

ホームページアドレス <http://nakacho-e.saitama-city.ed.jp/>

追究の鬼

校長 河野 秀樹



5年生の校内研究授業の様子

先日東京学芸大学名誉教授であり、時代考証学会の会長で多くのNHK大河ドラマの時代考証をされた大石 学氏の講演「江戸イメージの転換と教育」を聞く機会がありました。その中で「江戸社会では、読み書きそろばんという基礎学力と職業、地域、興味・関心などによる個別学習が共存していた。当時の学習は、直接キャリアアップや収入増につながるものではなかった。藩校などを除けば、人々は義務ではなく、自らの意志で学び、入塾期も退塾期も自ら決めた。各自の好奇心・知的欲求に基づきそれぞれのペースで学ん

だ」ことなどを聞きました。大石氏が時代考証を務めた大河ドラマ「花燃ゆ」の第一話の明倫館・講堂の場面で、伊勢谷友介演じる吉田寅次郎（松陰）がこう語ります。「ここで止めても日本国中に溢れます。なぜ皆が禁じられた本を読もうとするんか。知りたいからです。学びたいからです。変えたいからです。今までの学問では、もう日本国は守れん。本当にこの国のことを思うもんは知っとる。死に物狂いで学ばにゃ、この国は守れんと」・・・「皆に聞きたい。『人はなぜ学ぶのか？』・・・『己のためじゃ。己を磨くために、人は学ぶんじゃ』」大石氏の話から「自分で考えることの大切さ」や「何のために学ぶか」を考えさせられました。

本校では、子どもたちが学習したことを実生活や実社会で生かしていくことが大切であると考え、校内研修のテーマを「自分の考えをもち、共に学び合う子どもの育成」として一年間取り組んできました。1月の校内授業研究会では、多くの教員が参観し互いに学び合いました。授業は5年社会科「自然災害から身を守る」です。教師は、子どもたちが主体的に学べるように課題意識を高め、調べる内容や資料、方法、まとめ方など選択させていました。学習の振り返りで「国はもっと防災や減災を考え、自分も取り組んでいきたい」「課題解決する取り組みをもっと知りたい」などの発表がありました。しかし、学習はここでは終わりません。ある子は「社会で習った避難タワーの内容が分からないので詳しく知りたい」と考え、家庭自主学习ノートに「備蓄などの支援もあるが、能登半島地震では本や紙、ペンなど子どもの暇つぶしになるものなど、精神的な安定を図ることが重要」と、新たな視点から考えをまとめていました。私は今までそのような視点で考えたことがなかったので、目から鱗が落ち、早速避難袋の中身を確認しました。

私の尊敬する先輩教師の有田和正氏は、こう述べています。

「わたしが本当に『おもしろい授業』『味のある授業』と思うものは、授業の中で子どもが『はてな？』を持ち、それを自らの力で追究して、自分なりの結論を授業に持ち込む。それを教師がゆさぶり、突っ込み、新しい『はてな？』を発見させ、さらにそれを子どもが追究する—という一連の流れを繰り返す中で『追究の鬼が育つもの』を言う」

今年度の学校自己評価システムシートが、本校ホームページに掲載されています。(https://nakacho-e.saitama-city.ed.jp/gakkoujikohyoukasystem/) そこには「指導訪問等を踏まえた授業改善の実施」「個別最適な学びの実現に向けた講演会や校内研究授業の実施」などの具体的方策を掲げ、教育活動に取り組んできました。この後、学校運営協議会等の評価を踏まえながら、来年度は子どもたちが「追究の鬼」となれるように、「授業での振り返りを生かした家庭自主学习の実施」や「教員が子どもたちのロールモデルとなれるような校内研修・授業改善の推進」を進めていきたいと考えています。

参考資料：「学級づくりの教科書」有田和正 さくら社